

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：観光費 目：観光開発費

事業名 飛騨・美濃じまんPR推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 観光国際局 観光企画課 政策企画係・観光資源係

電話番号：058-272-1111 (内 3059)

E-mail：c11334@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,500千円 (前年度予算額：5,528千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,528	0	0	0	0	0	0	0	5,528
要求額	2,500	0	0	0	0	0	0	0	2,500
決定額	2,500	0	0	0	0	0	0	0	2,500

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県では、「知ってもらおう、見つけだそう、創りだそう ふるさとのじまん」を合言葉に「飛騨・美濃じまん運動」に取り組んでいくこととしており、合言葉の一つである「知ってもらおう」を積極的に推進するため、各種媒体や団体等を活用して、「飛騨・美濃じまん」を広く県内にPRし、海外、全国各地から岐阜県へ観光に訪れてもらう。

(2) 事業内容

- ①観光誘客宣伝事業 1,336千円
- ②飛騨・美濃観光大使イベント等活用事業 1,164千円

(3) 県負担・補助率の考え方

「飛騨・美濃じまん運動」は県の事業であり、県負担は妥当。

- (4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	540	飛騨・美濃観光大使謝金等
負担金	1,330	観光団体等負担金
その他	630	旅費、消耗品費（PR用） など
合計	2,500	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

岐阜県長期構想

Ⅱ ふるさと岐阜県の資源を活かした活力づくり

3 地域の魅力を高め、観光交流を拡大し、消費を増やす

(人を呼び込み、地域の消費を拡大するために)

岐阜県成長・雇用戦略 2017

観光産業の基幹産業化プロジェクト

(2) 後年度の財政負担

観光PRの手段として、内容を検討しながら継続。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
一つのエリアで複数泊（連泊）が楽しめる地域が県内に多く存在し、これらを周遊することで、本件の高品質かつ本物の魅力が満喫できる宿泊滞在型観光を定番化する。
- ・第1ステージ（H20-24）観光資源の掘り起こしとブランディング〈点の拡大〉
- ・第2ステージ（H25-29）宿泊滞在型観光の本格展開〈点から線へ〉
- ・第3ステージ（H30-） 岐阜ならではの宿泊滞在型観光の定番化〈線から面へ〉

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率
観光消費額	億円 (H-)	2,819億円 (H29)	2,822億円 (H30)	2,933億円 (R1)	3,300億円 (R7)	88.9%
観光入込客数（実数）	万人 (H-)	4,556万人 (H29)	4,603万人 (H30)	4,800万人 (R1)	4,900万人 (R7)	98.0%
外国人延べ宿泊者数	万人 (H-)	98万人 (H29)	148万人 (H30)	166万人 (R1)	180万人 (R7)	92.2%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

- ・事業の活動内容
イベントの実施、PRツールとなる冊子の作成等により岐阜県のPRを行った。

（前年度の成果）

- ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
令和元年の観光入込客数については、来年度の集計のため未定。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	県内への観光入込客数を増やし、観光消費額を増大させるため、様々な手法で観光PRを行い、岐阜県への興味を喚起する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	直接的な効果は分からないが、 観光入込客数の推移 H29 4,556万人 → H30 4,603万人 上記により、一定の効果が得られていると推察される。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	「飛騨・美濃じまん」のPRを行うことにより、効果的に岐阜県への誘客を図ることができる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 本県の観光客に占める割合が高い中京圏からの来県頻度の向上（リピーター確保対策）や、首都圏、関西圏からの誘客を強化。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 多くの観光者に岐阜をPRできるよう、観光大使の活用等、岐阜の魅力を効果的にPRすることにより、観光客の本県観光への誘導を促進する。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	